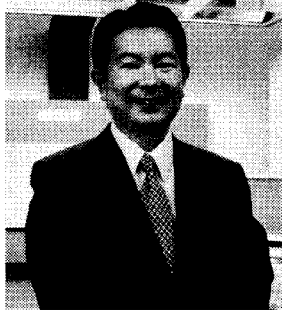


フジプランズ(藤田博久社長、本社・東京都大田区、社員20名)は、今年2月に水なし印刷への転換を一気に図り、順調に稼働し続けて3カ月が経った。所有する印刷機が1台ゆえ、水ありからの切替えにあたっては長い検討期間も要したが、社長の号令の下に印刷機のリノベーションを行い水なし化した結果は、期待していた以上の成果だった。クリアな色再現など品質面の向上のほか、見当合わせにかかる時間の短縮などで作業効率も向上。諸資材の使用量など工場経費も1割程度減少したという。

◆優良顧客の新規開拓で業態を転換

フジプランズは、1962年(昭和37年)に川崎市で創業した。当初はコピーサービスを目的とし、大手電機メーカーの工場構内複写指定業者となったことで事業を拡大した。一時は電機メーカーからの受注が売上げの9割にも達したが、経営の安定を図るうえで、徐々に



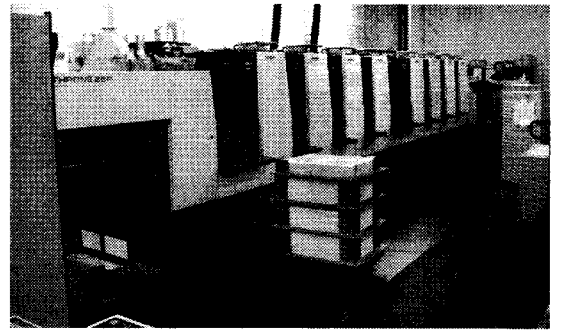
藤田社長

その後、プリプレス工場でのデジタル化を促進し、菊四裁機の導入で小ロットカラー印刷にも対応。2005年に現在の印刷機は、11

フジプランズ

もあり、情報収集の範囲にとどまっていた。3年前にようやく現場でのテストを実施したものの、水なし印刷用の仕立てを特に行わず、静電気除去装置等を備えていなかったこともあり、色

水なし印刷で設備能力を再強化



リノベーションを行った8色両面印刷機



印刷機のすぐ近くにある自動現像機とセッター

品質への自信深める

工場経費も1割削減

調整や紙送りなどいろいろな点でうまくいかなかった。そのため、工場

◆スムーズな移行に営業担当者も驚き

以前と何が違っていったか。まず、東レ印写システムであるタケミ(柴崎武士社長)により、水なし印刷に合わせたローラー調整など、入念な印刷機の仕立てが行われた。また、導入に反対していた工場長が退任し、後任に新しい感覚の若い工場長が就任したことで、水なし印刷に対する抵抗感が薄らいだ。

また、導入に反対して

3カ月前に導入した今日まで、クライアントから水ありと比べた違和感など一切なく、従来の納品ですべてが受領されている。最も心配していたリフト物も営業自身が驚いている。さらに、経営への貢献

と語る。